

# 『Mind Charging』

第 208 回 発行：入試広報室 発行日：令和 3 年 2 月 8 日

## 稲盛和夫の名言



**可能性とはつまり『未来の能力』のこと。現在の能力で、  
できる・できないを判断してしまつては、新しいことや  
困難なことはいつまで経ってもやり遂げられません。**

日本を代表する経営者として名を馳せた人物で、京セラや KDDI を創業し、それぞれを大企業に育て上げたことや、倒産した JAL の会長に就任すると、僅か 2 年 8 か月で再上場へと導いたことでも非常に有名です。今回の言葉は、誰に聞いても『偉業』と称えるようなことをやり遂げた稲盛氏の“モットー”なのかもしれません。

可能性とは、『成功の可能性が高い』などといった“物事が実現できる見込み”という意味や、『生存している可能性もある』などといった“事実がそうであるという見込み”という意味があります。そして、今回の言葉は『無限の可能性を秘めている』などといった“潜在的な発展性”という意味での可能性について言っているのだと思います。言葉にあるように“未来の能力”は、未来になってみないとわかりません。1 年後なのか 10 年後なのか、設定された未来の瞬間までに自分の能力をどこまで伸ばすことができるのかという『挑戦』なのだと思います。

このコラムでも『自分の可能性に挑戦する』ことについて何度か述べていますが、非常に困難なことに“敢えて”立ち向かっていくということですから“辛いこと”というイメージを持つてしまうのも無理もないと思います。特にこのように文字化すると余計にプレッシャーを感じるかもしれません。そんな心理状態の中で『できる・できない』を判断しようとするればポジティブな答えは期待できません。そういう意味では、一番困難なことは目の前にある問題ではなく、自分の中にあるということになります。自分の描いた未来予想図を自分の思う未来のタイミングまでに“絶対に間に合わせてみせる！”という気持ちでいち早くスタートを切ることができるのかどうかは自分の気持ち次第ということですね。困難なことでもやり遂げるためには時間はもちろんですが、エネルギーと勇気が必要です。正智深谷高校でしっかりと養い、蓄えましょう！（編集委員：入試広報室 鈴木）

稲盛 和夫(いなもり かずお、1932 年(昭和 7 年)1 月 21 日 - )は、日本の実業家。京セラ・第二電電(現・KDDI)創業者。公益財団法人稲盛財団理事長。「盛和塾」塾長。日本航空名誉会長。(Wikipedia 参照)